医学教育研究助成（令和４年度）

医学生におけるアンプロフェショナル行動の実態と教育的介入構築の基礎的研究

A fundamental study of the true state of unprofessional behavior in medical students and the construction of educational interventions

東京医科大学　医学教育学分野
講師　　五十嵐 涼子

研究期間

令和４年４月１日～令和６年３月 31 日

研究の概要

Ⅰ. 研究の背景

2016 年度に改定された文部科学省の医学教育モデル・コア・カリキュラムにおいて、「医師としての基本的な資質」の第一番目として、プロフェショナルリズムが揚げられており、基礎教育における早期介入の重要性が高まっている。しかし、国家試験の出題範囲に含まれていないことから、プロフェショナルリズム関連の科目や授業を軽んじる医学生が散見される。このような学生は学習への取り組む姿勢や受講意欲が著しく低く、実習において問題行動を起こすことが課題となっており、学生のアンプロフェショナル行動の実態を把握しきれていないのが現状である。そのため、教育内容の見直しやアンプロフェッショナルな問題行動をとる学生が省察できるよう個別性を踏まえた教育的介入を検討することが急務である。

Ⅱ. 研究目的

本研究の目的は、学生のアンプロフェショナル行動の実態を明らかにし、学生への個別性を踏まえた教育的介入方法を構築のための基礎資料とすることである。

Ⅲ. 研究方法

1. 研究対象者

東京医科大学医学部医学科に所属し、医学科の授業、実習を担当している助教以上の教員。

2. データ収集方法

インタビューによる調査。インタビューは、研究者が作成したインタビューガイドを用いて行い、また学生のアンプロフェショナル行動について自由に語ってもらった。

Ⅳ. 結果

研究協力者は 14 名であった。インタビュー内容を逐語録にし、学生のアンプロフェショナルな言動や行動、学生への教員の対応について、抽出し質的記述的分析を行った。学生のアンプロフェショナルな言動や行動について、「良心・誠実さの欠如」、「他者との関わりの欠如」、「学修意欲の欠如」、「自己内省の欠如」の４つのカテゴリーが抽出された。

Ⅴ. 考察

学生はプロフェッショナリズムについて十分に理解していなく、アンプロフェッショナルな行動を起こしてしまうといえる。アンプロフェッショナルな学生が行動を是正できなければ将来、医師になった時、患者、医療チーム、多職種連携、さらには自身のキャリア形成にも影響を与える可能性がある。そのため、医学部に入学した１年生の早い時期からプロフェッショナリズム教育を行い、プロフェッショナリズムに必要な能力を養っていくことが重要になる。また、アンプロフェッショナルな行動についても可視化するシステムの構築が必要である。